

<定点把握感染症>

※表中の数値 上段:報告数 下段:定点当たり報告数

※定点当たり報告数が、▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少

※◎:警報レベル

○:注意報レベル

疾患名	全国	山形県			村山地区			最上地区			置賜地区			庄内地区			累積(県)
	第40週	第40週	第41週	増減	第40週	第41週	増減	第40週	第41週	増減	第40週	第41週	増減	第40週	第41週	増減	
インフルエンザ定点 (定点医療機関数)		(48)			(20)			(5)			(10)			(13)			
インフルエンザ	848 0.17	5 0.10	11 0.23	▲	2 0.10	5 0.25	△				3 0.30	6 0.60	▲				16198
小児科定点 (定点医療機関数)		(30)			(13)			(3)			(6)			(8)			
RSウイルス感染症	4965 1.58	97 3.23	70 2.33	▼	51 3.92	43 3.31	▼	1 0.33		▼	35 5.83	21 3.50	▼	10 1.25	6 0.75	▽	1240
咽頭結膜熱	947 0.30	7 0.23	6 0.20	▽	3 0.23	2 0.15	▽	1 0.33	2 0.67	▲	3 0.50	2 0.33	▼				720
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4631 1.47	57 1.90	47 1.57	▽	26 2.00	15 1.15	▼	2 0.67		▼	15 2.50	22 3.67	△	14 1.75	10 1.25	▽	3787
感染性胃腸炎	10572 3.35	78 2.60	73 2.43	▽	32 2.46	37 2.85	▲	3 1.00	2 0.67	▼	36 6.00	24 4.00	▽	7 0.88	10 1.25	△	6031
水痘	739 0.23	6 0.20	6 0.20			1 0.08	△	1 0.33	1 0.33		1 0.17	2 0.33	▲	4 0.50	2 0.25	▽	485
手足口病	3404 1.08	17 0.57	19 0.63	▲	15 1.15	11 0.85	▽					1 0.17	△	2 0.25	7 0.88	△	1237
伝染性紅斑	1421 0.45	14 0.47	17 0.57	▲	2 0.15	3 0.23	▲	4 1.33	1 0.33	▽	6 1.00	10 1.67	▲	2 0.25	3 0.38	△	387
突発性発しん	1367 0.43	18 0.60	19 0.63	▲	3 0.23	7 0.54	▲	3 1.00	2 0.67	▽	7 1.17	4 0.67	▽	5 0.63	6 0.75	▲	703
ヘルパンギーナ	2635 0.84	77 ◎2.57	24 0.80	▽	22 1.69	4 0.31	▽		1 0.33	△	46 ◎7.67	14 ◎2.33	▼	9 1.13	5 0.63	▼	2788
流行性耳下腺炎	395 0.13	3 0.10	2 0.07	▽	1 0.08		▽				1 0.17	1 0.17		1 0.13	1 0.13		126
眼科定点 (定点医療機関数)		(8)			(4)			(1)			(1)			(2)			
急性出血性結膜炎	3 0.00		1 0.13	△											1 0.50	△	1
流行性角結膜炎	698 1.01		2 0.25	△		1 0.25	△								1 0.50	△	95
基幹定点 (定点医療機関数)		(10)			(4)			(1)			(2)			(3)			
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	4 0.01																20
クラミジア肺炎	3 0.01																
マイコプラズマ肺炎	144 0.30		3 0.30	△		3 0.75	△										117
細菌性髄膜炎	11 0.02																8
無菌性髄膜炎	14 0.03																6

<全数把握感染症>

疾患名	類型	報告数				備考
		村山	最上	置賜	庄内	
結核	患者				1	
	無症状病原体保有者			1		
腸管出血性大腸菌感染症	患者	1				型別:O157 VT1VT2。
	無症状病原体保有者	1				型別:O157 VT1VT2。
レジオネラ症	患者		1			
アメーバ赤痢	患者			1		
梅毒	患者	1				

<通信欄>

※インフルエンザの迅速キットによる型別は、A型が11件です。集団発生の報告はありません。
 ※トピックスで、RSウイルス感染症、腸管出血性大腸菌感染症について掲載しています。

<定点把握感染症 報告患者数 年齢別>

インフルエンザ定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	
インフルエンザ			1	2	2	1			1	1				1	
	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～									合計
	1	1													11
小児科定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～	合計
RSウイルス感染症	9	12	22	14	5	4	3			1					70
咽頭結膜熱		1	1		2	1		1							6
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			1	5	4	4	9	6	8	2	1	7			47
感染性胃腸炎	1	5	10	9	8	10	5	8	1	4	3	8	1		73
水痘					1	2	1		2						6
手足口病	1	2	1	5	2	2	2	1	2		1				19
伝染性紅斑			1	1	3	1	5	1	1	1		3			17
突発性発しん		3	15	1											19
ヘルパンギーナ		1	8	10	2		1			1				1	24
流行性耳下腺炎				1		1									2

<平成30年8月 月報>

2018年9月26日 発行

疾患名	山形県		村山地区		最上地区		置賜地区		庄内地区		累積(県) 1～8月	
	7月	8月	7月	8月	7月	8月	7月	8月	7月	8月		
STD定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
性器クラミジア感染症	報告数	18	18	12	13			4		2	5	149
	定点当り	1.80	1.80	3.00	3.25			2.00		0.67	1.67	
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	6	3		1	1		4	2	1		61
	定点当り	0.60	0.30		0.25	1.00		2.00	1.00	0.33		
尖圭コンジローマ	報告数	4	4	2	4			1		1		27
	定点当り	0.40	0.40	0.50	1.00			0.50		0.33		
淋菌感染症	報告数	2	7		2					2	5	26
	定点当り	0.20	0.70		0.50					0.67	1.67	
基幹定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	報告数	8	4			1	2	2		5	2	59
	定点当り	0.80	0.40			1.00	2.00	1.00		1.67	0.67	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	報告数	20	22	10	10		1	1	1	9	10	149
	定点当り	2.00	2.20	2.50	2.50		1.00	0.50	0.50	3.00	3.33	
薬剤耐性緑膿菌感染症	報告数											
	定点当り											

<トピックス>

RSウイルス感染症 情報

RSウイルス感染症の県平均定点当たり報告数は2.33人で、減少傾向にあるものの、依然として多い状況が続いています。

- ・第41週 定点当たり報告数(山形県:2.33人)
- 村山:3.31人 最上:0.00人 置賜:3.50人 庄内:0.75人

※警報・注意報の基準値は設定されていません。

<RSウイルス感染症とは>

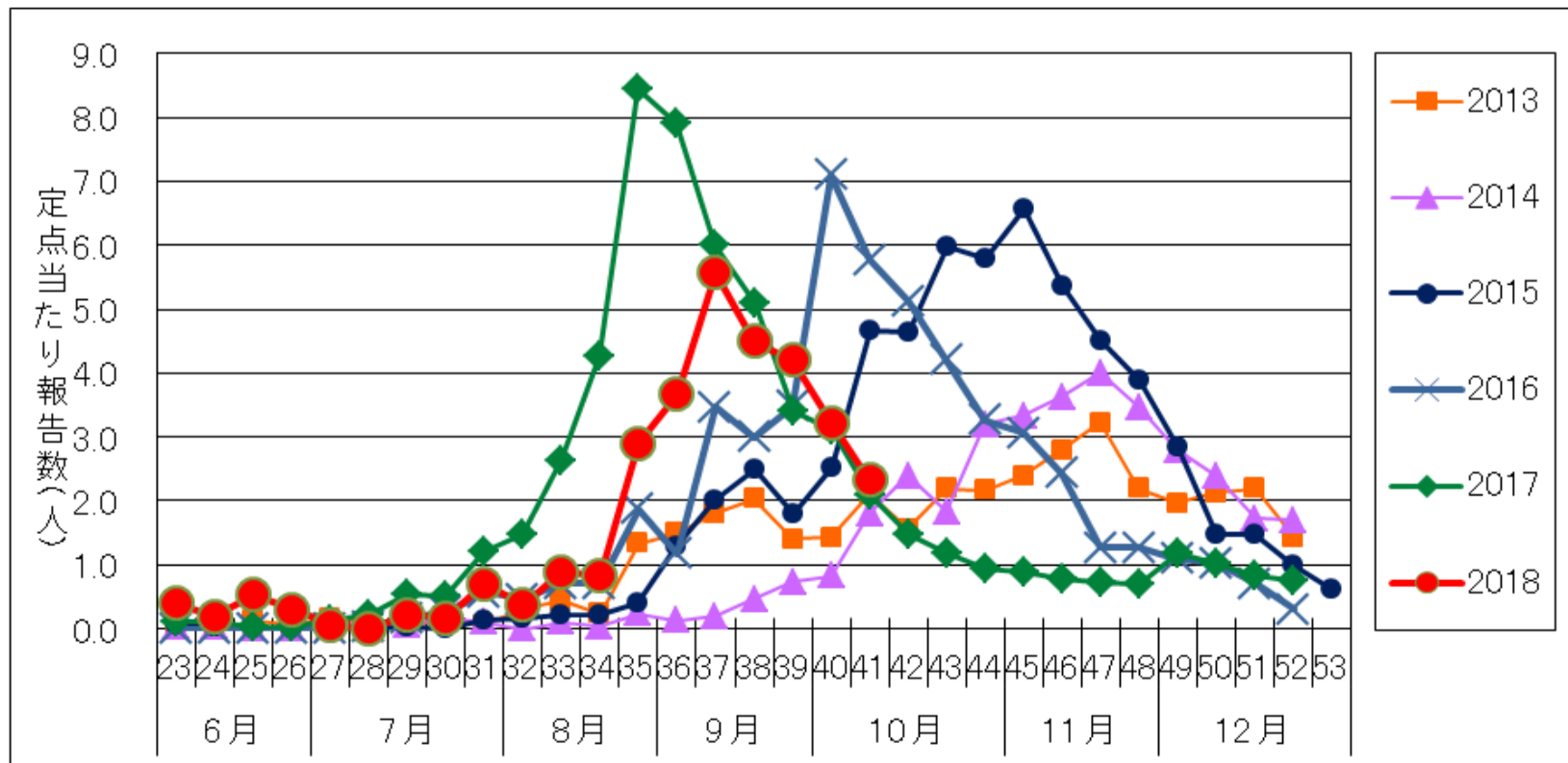
RSウイルス感染症は、乳児によくみられる急性呼吸器感染症です。潜伏期間は4～6日、症状は軽い風邪様の症状から肺炎まで様々です。2歳までにほぼ100%の人が感染し、生涯にわたり何度も感染と発症を繰り返します。

初めて感染した場合は症状が重くなりやすく、特に新生児や生後6ヶ月以内の乳児は注意が必要です。

感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染、ウイルスがついている物を介しての接触感染などがあります。予防法としては、手洗いの励行、マスクの着用、ウイルスの付いている物の消毒が有効です。



<年別 定点当たり報告数の推移(山形県)>



腸管出血性大腸菌感染症 情報

第41週に、腸管出血性大腸菌感染症の患者が1名(村山地区、O157 VT1VT2)、無症状病原体保有者が1名(村山地区、O157 VT1VT2)報告されています。

・感染者の内訳 (平成30年第1週からの合計)

	O8	O26	O103	O111	O115	O121	O157	OUT*	総計
村山地区		4	2	1	2		13	1	23
最上地区							1		1
置賜地区	1	2		1			11	1	16
庄内地区						4		1	5

※OUT: O-antigen untypeable

腸管出血性大腸菌感染症とは

ベロ毒素を産生する大腸菌(腸管出血性大腸菌)に汚染された食べ物を経口摂取することによっておこります。3～5日の潜伏期間の後、激しい腹痛とともに頻回に水様便が出るようになり、のちに血便となります。溶血性尿毒症症候群や脳症を合併し、重症化する場合があります。

原因となる食品は肉や野菜など様々です。最も多く発生するのは夏ですが、秋も発生の多い季節です(図1)。

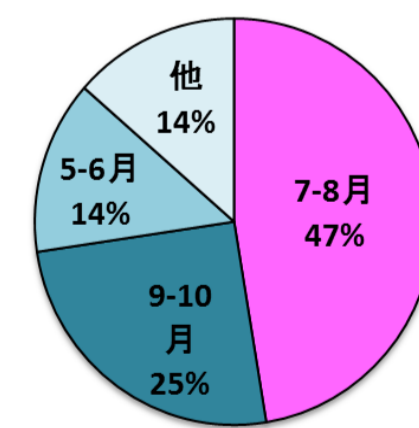


図1: 月別報告数(2012-18年)

予防のポイント

- ① 菌をつけない
手洗いを徹底し、清潔な布巾や調理器具を使いましょう。
- ② 菌を増やさない
食品はすぐに冷蔵庫に保存し、常温に放置しないようにしましょう。
- ③ 菌をやっつける
食品の加熱は中心まで、75℃、1分以上加熱しましょう。

